

● ドイツ近世哲学と日本的発想 ●

Keywords : フィヒテ、自我、絶対者

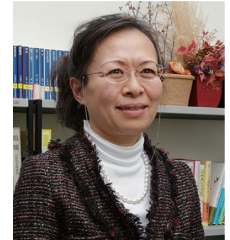
◆研究概要

ドイツ近世哲学を中心として西洋の世界観を確認しながら、日本人の考え方の基礎にある東洋的世界観あるいは仏教における世界観との比較検討を行なう。ドイツ近世哲学は人間の在り方をいわば極限にまで突き詰め、形而上的ななかかわりの中で改めて人間を捉えようとした体系である。一方で日本的な発想においては、個人としての人間の在り方を突き詰めるよりも、むしろ個人は全体の中に溶け込むものとして、また人間は自然との一体感の中にあるものとして理解されてきた。西洋の科学的発想に基づく現代社会において、日本的発想を再確認することで新たな視点を見出していきたい。

教育推進センター
哲学研究室
教授

あべ のりこ
阿部 典子

n-abe@hiro.kindai.ac.jp



●研究テーマ

1. フィヒテ哲学研究
 - ・その世界観の理解
 - ・絶対的なものと自我との関係の理解
2. フィヒテ哲学と仏教的発想
 - ・仏教の一般的理解
 - ・フィヒテの世界観と仏教的思想との比較検討
3. 現代へのフィードバック

●論文・特許等

1. 「フィヒテ哲学の展開」平成 18 年 12 月 近畿大学工学部紀要第 36 号 pp.1-11
2. 『『知識学入門講義(1813)』におけるフィヒテの立場』平成 17 年 12 月 近畿大学工学部紀要第 36 号 pp.1-10
3. 「フィヒテ哲学理解の試み —1810 年知識学の図式論を中心として—」平成 16 年 3 月 広島大学西洋哲学研究室「シンポジオン」Vol.49 pp.40-53